

大学院看護学研究科の授業評価結果に対する考察（平成 26 年度）

副学長・研究科長 草間 朋子

「高度実践看護コース」「高度実践助産コース」「看護科学コース」の授業評価を行う対象科目数は、それぞれ 20 科目、31 科目、12 科目であり、評価を行った大学院生は、それぞれ延べ、343 名、205 名、36 名であった。回答率は、それぞれ 93.9%、70.2%、86.1%であり、高度実践助産コースの回答率が例年と同じように低かった。授業評価の結果は、教育の質の確保、カリキュラム改善等に活用していくので 90%前後の回答率が得られるよう工夫していく必要がある。

【高度実践看護コース】

○全評価項目（8 項目）について、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の割合が 80%近く、あるいはそれを超え、8 項目ともに昨年に比べて「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の割合が増加しており、カリキュラムの改善、講義・演習の進め方の改善、演習室の器材の整備・充実などが反映された結果であると受け止めている。

○自由記述として記載されていた事項の中で、講義・演習の進め方についての要望等に関しては、今後、できるだけ改善に向けての努力をしていただくように各担当者をお願いをしていくこととする。しかし、時間数を延長して欲しいとの要望（ほぼ全科目について時間数の延長が希望されている）に関しては修士課程 2 年間という限られた期間の中での対応は難しいので学生には自己学習でスキルアップを図っていくことをお願いしたい。

【高度実践助産コース】

○2 つの評価項目を除く 6 項目の評価項目で、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の割合が、昨年に比べて減少している。この結果を、講義内容・進め方等の改善が行われていないと受け止めるか、評価する学生が昨年とは異なっていると受け止めるかは難しいところであるが、結果を真摯に受け止める必要がある。「助産師プログラム」と「助産師免許取得プログラム」の学生が同時に学ぶメリットとデメリットを再考し、履修科目や講義・演習の内容、進め方について再検討する必要性を痛感している。

【看護科学コース】

○平成 26 年度から新設したコースであるが、科目によって学生の評価がかなり異なる。看護科学コースに関しては、すべての科目を夜間開講としていること、他の 2 つのコースに比べて履修単位が少ないことが特徴である。学生は、自分達の履修した科目に対しては 90%近い学生が「将来役立つ」と評価しているので、とくに学生の満足度の低かった科目については、講義内容・講義の進め方等の改善に向けて積極的に取り組むよう担当者をお願いをしていくこととする。

平成 26 年度の授業評価の結果を参考に、学生がすでに受けてきた基礎教育・継続教育や実践経験などを考慮した改善を重ね、大学院教育の質の担保を図っていくこととしたい。

以上